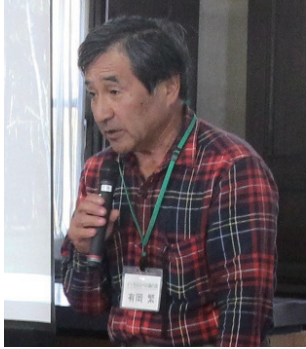


インカルシペの森の会(大樹町)

紙で育てよう カミネッコン 播種・植樹体験会 (森林空間利用タイプ活動報告)



報告者／
有岡繁さん

有岡 大樹町から来ました、有岡です。これが(写真1) 今、インカルシペの森の会のフィールドです。このフィールドは約6.2ヘクタール、一部シラカバ林だけですが、その他にハンノキやハルニレなどの林となっています。「保全タイプ」と「空間利用タイプ」を実施していますが、今年初めて申請し7月からスタートしました。

上2枚の写真は、8月に帯広から子ども達が活動したものです。ここは森に個人のペンションとコテージがあり、宿泊が出来、所有団体は子ども達に、薪割りや木こりなどの森林体験をさせたいという事で、依頼がありました。たまたま生活保護家庭の子ども達の団体で、責任者から子どもの顔が特定できるような写真はNO!といわれました。こちらの写真(パワーポイント2ページ目右上)は子どもたちが薪割りをしているのですが、これは視察に来た十勝振興局の職員が、子ども達が楽しそうなので、自分でまさかりを持ってきて薪を割っている風景です。下の写真(パワーポイント2ページ目左下・右下)は、同じ場所で、子ども達が木を切ったり木登りをしたりしている所です。

今回は9月28日に実施した、カミネッコンで播種と植樹体験会について発表します。

通常、植林は鍬やスコップを使って苗木を植えますが、カミネッコンという再生段ボールを使った鉢のような物で植える植林体験を通じて、木に親しみ木を育てるこ

との大切さや楽しさを知る、そして公有林から、人と野生動物が共存できる森づくりとは何か考える場とする事を目的として行いました。

チラシ(パワーポイント5ページ目)を各戸に配布したり、メール配信して参加者を募りました。帯広在住の木育マイスターのお2人に講師をお願いしました。

カミネッコンは段ボールの部品を組立てて行います。これは(パワーポイント7ページ目) 植樹した苗木です。ミズナラやハルニレ、シラカバ、イタヤカエデ、カツラ、ヤチダモ、ヤナギ、そしてカシワとクヌギは種で利用しています。これらは全て家の周りに生えてきたものを春に採りポットで育てて利用しています。これは(パワーポイント8ページ目) カミネッコンを作る前の準備をしている所です。この2人が(パワーポイント8ページ目) 講師の方です。これは(パワーポイント9ページ目) カミネッコンによる土を作っている所です。普通の土に腐葉土と鹿沼土などを入れて作っています。これは(パワーポイント12番目) 開会式、これは(パワーポイント13ページ目) カミネッコンの説明をしている所です。

以前、カミネッコンは新聞紙を水でぬらして周りに入れるやり方でしたが、今は隙間に段ボールを折りたたんで入れるという簡単な方法になっています。子どもを対象にしましたが、親子の参加が1組だけで、あとは木に興味のある人が集まってくれました。カミネッコンのこの中に(パワーポイント17ページ目) 段ボールを折りたたんで入れて、これが(パワーポイント18ページ目) 底になります。出来上がったら(パワーポイント19ページ目) メッセージを書きます。そして蓋をしてひっくり返して土を入れます。これが(パワーポイント21ページ目) 土を入れている所です。これは(パワーポイント23ページ目) 新聞紙をぬらしてやってみています。思いつき木でつついて隙間の無いようにしています。これが出来上がったところ。そして記念写真を撮りました。これは(パワーポイント27ページ目) 設置場所です。こういう風に並べて、これは(パワーポイント



写真 1

28ページ目) 6個置いてあります。このシラカバ林では10数年間樹液を採集しています。シラカバの老齢化が進み所々空間が出来ているので、そういう所に設置します。最後にこういう風に(パワーポイント31ページ目) 水をかけて終わりです。

最後に振り返りとしてみなさんから一言感想を頂きました。中にはカミネッコンの経験がある人もいましたが、大半が初めてで、今度植えた木を見に来たいなど、いろいろな意見がありました。修学旅行で民泊に来た時に記念植樹として木を植えさせるとインパクトがあるのではないかという意見もありました。辛辣な意見として、ガーナで日本語を教えている女性が、原理は分かるが、こういう物で木を植えることは普通に木を植えるより時間とコストがかかる。砂漠などではこの方法は良いかもしれないけれども、助成金などがなければ、現地の人がこれで木を植えて森をつくりましょうということにならない。1個160円でも、お金をかけずに木を植える方法は他にあるのではないかという意見でした。それはそれとして、こういう木の植え方もあるという事を知ってもらいました。

今回は庄内川や他の町で、秋のイベントがあり、親子の参加は少なかったですが、いかに参加者を集めるかということを考えなくてはなりません。新聞記事に上げてもらい本別町から参加してくれた人もいました。ま

た、実施後にも掲載してもらい、活動を知ってもらうことができました。

〈質疑応答〉

質問1 交付金はいくら受けているのでしょうか。

有岡 今年初めてで、活動推進費15万円と、里山保全で2ヘクタール分の32万円、空間利用年6回分で30万円、そして資機材として薪割り機15万円の申請をしています。



写真 2